

令和7年度 公開保育・施設関係者評価

●公開保育

■実施：2026年2月19日 ■参加者：保護者代表、あさひこども園(園長及び職員)、みのりこども園(職員)、星の子こども園(職員)、仰木星の子こども園(職員)

■テーマ：固有の環境を通した保育の実践 ■実施内容：

・公開保育の視点

園の特徴的な園庭、森、田などの環境において、日々変化する自然のおもしろさ、不思議さが残され、そこで子供たちが自ら遊びを作り出す様子を見学した。

・当日の保育における子どもの様子

好天の下、主に屋外において、自然と触れ合う保育を行った。自然豊かな環境が、子どもが本来持っている様々な力を呼び起こし、学びを豊かにしていく様を見ることができた。

・公開保育後の振り返り

普段の保育の様子や、環境を構成するための手法や実際の環境の推移などを、質疑応答を通して振り返った。

■評価

評価者による評価

おままごとコーナーの食べ物が一つひとつ丁寧に手作りされており、温かみのある環境に感動しました。室内には工夫された手作り玩具や、写真付きで整理された環境構成など、子どもが主体的に遊びを選び、継続して楽しめる工夫が随所に見られ、大変参考になりました。また、自然豊かな園庭がとても印象的でした。山や斜面、草花や木々の中で、子どもたちがのびのびと遊びを広げる姿から、遊びを通して体の使い方を学び、体幹やバランス感覚を育てていることが伝わってきました。自然の中で子ども自身が遊びを見つけ、挑戦できる環境の素晴らしさを改めて感じました。

今回の学びを自園にも持ち帰り、子どもたちと共に環境づくりに活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

上記を踏まえた今後の課題

自然環境のなかで子どもが主体的に遊ぶことの大切さを追求していく。

●施設関係者評価

■実施：2026年2月19日 ■参加者：同上 ■評価：

手作り玩具や整理整頓された室内環境により、子どもが自ら遊びを選び、落ち着いて過ごせる環境が整備されている。写真表示などの工夫により、子ども自身が分かりやすく使いやすい環境構成となっている点も確認された。

また、自然豊かな園庭環境を活かした保育が実践されており、子どもが主体的に遊びを展開しながら、体幹やバランス感覚を養う機会が確保されているとの意見があった。環境を通して子どもの育ちを支える取り組みが行われていると評価された。